

# 7月



## 園長便り

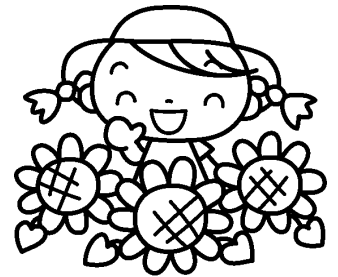
2014年6月30日発行

セブンスデー・アドベンチスト石川教会付属 石川三育保育園

SMAP が歌う「世界に一つだけの花」の中に、次の歌詞の部分があります。

花屋の店先に並んだ  
いろんな花をみていた  
ひとそれぞれ好みはあるけど  
どれもみんなきれいだね  
この中で誰が一番だなんて  
争う事もしないで  
バケツの中誇らしげに  
しゃんと胸を張っている  
(右上に続く)

それなのに僕ら人間は  
どうしてこうも比べたがる？  
一人一人違うのにその中で  
一番になりたがる？



後半の歌詞で、「どうしてこうも比べたがる？」、「一番になりたがる？」と疑問符で訴えかけられている事柄は、多くの人々が共感する思いではないでしょうか。何故ならば、いつも、このような思いの中に心が虜になっていきますと「嫉妬」という感情が生まれてくることを、私たちが経験的に知っているからです。イギリスの哲学者であったバートランド・ラッセルが「心配ごとに次いで、不幸の最も強力な原因の一つは、おそらくはねたみである。」と指摘しているように、できればこのような感情を持ちたくないというのが本心であるのです。ところが、このような感情は幼い子供のうちから生まれてくるというのです。野口整体で知られる野口晴哉は、「叱言以前」という本の中で、嫉妬が生まれてくる様子を記しています。

妙ちゃんという絵の大好きな子供がいて、絵を描くこと自体が楽しくていつも夢中になっていました。ある時、お母さんが妙ちゃんの絵を手にとって「上手に描けたね」と言ってくれた。大好きなお母さんにほめられてうれしかった妙ちゃんは、それからは、お母さんにほめられるために絵を描くようになった。妙ちゃんは絵を描きあげるとすぐにお母さんのところに持って行った。しかし、お母さんはいつも最初の時のようにほめてくれるとはかぎらない。お母さんがお兄さんの絵をほめるときもあった。そのとき、妙ちゃんはお兄さんの絵のじゃまをしてしまった。

お母さんが妙ちゃんをお兄さんと比べたとき、妙ちゃんもお兄さんと自分を比べてしまったのです。物事の結果だけを評価するのではなく、その過程の思いや行為も含めてほめてあげることの大切さを教えられました。聖書は、このように配慮することを次のように「愛」という言葉で表しています。この愛を表すことができたなら願うものです。

「愛は寛容であり、愛は情深い。また、ねたむことをしない。愛は高ぶらない、誇らない。」

I コリント 13:4

園長 糸数正義

